

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

喘息予防・管理ガイドライン 2024

「喘息予防・管理ガイドライン 2024」作成委員会/一般社団法人日本アレルギー学会 JGL2024WG
(委員長 山口正雄 帝京大学ちば総合医療センター内科(呼吸器))
株式会社協和企画 2024 年 10 月 17 発行

Strength of Evidence

- A: 無作為化比較試験(RCTs), 大規模データ
- B: 無作為化比較試験(RCTs), (比較的) 小規模データ
- C: 非無作為化試験, 観察的研究
- D: パネルコンセンサスの総意

Minds 掲載 無

■1 漢方薬、柴朴湯、麦門冬湯

疾患:

成人喘息 (長期管理薬)

有効性に関する記載ないしその要約:

6-1 薬剤の 12) その他の薬剤、療法の項に、下記の記載がある。

『喘息に適応のある漢方薬として柴朴湯や麦門冬湯などがあるが、喘息治療における有効性を実証できる偽薬対照試験ができていないのが現状であるので JGL では推奨しない』

■2 漢方薬(地竜、葛根湯など)

疾患:

AERD(NSAIDs 過敏喘息、N-ERD、アスピリン喘息)

有効性に関する記載ないしその要約:

7-1 N-ERD (NSAIDs 過敏喘息、AERD、アスピリン喘息)の項、

『表 7-1 N-ERD (NSAIDs 過敏喘息、AERD、アスピリン喘息)に対する使用可能な薬剤』
の『2. 安全』に『③漢方薬(地竜、葛根湯など)』の記載がある。